

平成 20 年 6 月 16 日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理部長 島川 優
(TEL. 078-302-7039)

国立がんセンターとの共同研究契約締結のお知らせ

当社は、平成 20 年 6 月 16 日付で、国立がんセンターと特定のキナーゼを阻害する新規抗ガン薬に関する研究を共同で行うことに合意し、共同研究契約を締結しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 共同研究契約の目的

当社と国立がんセンターは、共同でガンの増殖に関連する特定のキナーゼの活性を阻害する化合物を見出し、新規の抗ガン薬として開発します。

2. 共同研究契約の内容

国立がんセンター研究所化学療法部・下重美紀主任研究官、山田哲司部長らの研究グループは、プロテオーム解析(※1)によるガンの基礎研究と新しい治療法の開発に取り組んでおり、先般、特定の主要なガンにおけるガンの形態形成に関わるシグナル伝達において重要な役割を果たしているガン特異的キナーゼを発見いたしました。このキナーゼの働きを抑制できれば、ガン細胞の増殖だけを阻害し、正常細胞には毒性を示さない副作用の極めて少ない新世代の分子標的治療薬(※2)の開発が可能となることが期待されます。

当社は、今回締結した共同研究契約において、国立がんセンターと、このガン特異的キナーゼを分子標的としたガン治療薬の研究・開発を行ないます。

本共同研究では、当社の有するキナーゼ創薬基盤技術を駆使することで、短期間でガンに対して効果が高く、当該キナーゼに選択性の高い医薬品候補化合物が創製されることが期待されます。なお、本共同研究で得られたガン治療薬の医薬品候補化合物については、両方で非臨床試験および臨床試験を行なう以外に、早期に事業化(ライセンスアウトなど)する可能性もあります。

※1 プロテオーム解析とは

プロテオーム解析(プロテオミクスともいいます)は、構造と機能を対象としたタンパク質の網羅的な研究手法の一つです。たとえば、正常細胞とガン細胞のタンパク質をプロテオーム解析により網羅的に比較することで(発現プロファイル解析)、ガン部位で発現量が大きく変化しているタンパク質を同定することができ、ガンの発症・進行メカニズムの解明やガンマーカー分子探索が可能となります。

※2 分子標的治療薬とは

近年の分子生物学の進歩により、疾患の原因分子が解明されつつあります。分子標的治療は、その原因分子を狙い撃ちして病気を治療する方法で、その特異性から効果的かつ副作用の少ない治療法として注目されています。この分子標的治療に使用する薬を分子標的治療薬と呼び、特にガン治療においてはキナーゼ阻害薬が副作用の極めて少ない分子標的治療薬として期待されています。

3. 今後の業績に与える影響

本共同研究による今後の業績に与える影響については、現在集計中であり、確定次第速やかに開示させていただく予定です。

以 上

(ご参考)

国立がんセンターの概要

(1) 名 称	国立がんセンター
(2) 代 表 者	総長 廣橋説雄
(3) 所 在 地	東京都中央区築地 5-1-1
(4) 設 立 年 月 日	昭和 37 年 2 月 1 日
(5) 当社との関係	人的・資本的・取引関係は一切ありません。

カルナバイオサイエンスの概要

(1) 名 称	カルナバイオサイエンス株式会社
(2) 代 表 者	代表取締役社長 吉野公一郎
(3) 所 在 地	神戸市中央区港島南町五丁目 5 番 2 号 511
(4) 設 立 年 月 日	平成 15 年 4 月 10 日
(5) 事 業 内 容	キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品・サービスの販売 (創薬支援) および医薬品の研究・開発 (創薬)

【本件に関する問い合わせ先】

カルナバイオサイエンス株式会社
知的財産・法務、経営企画部 I R 担当
TEL : 078-302-7075